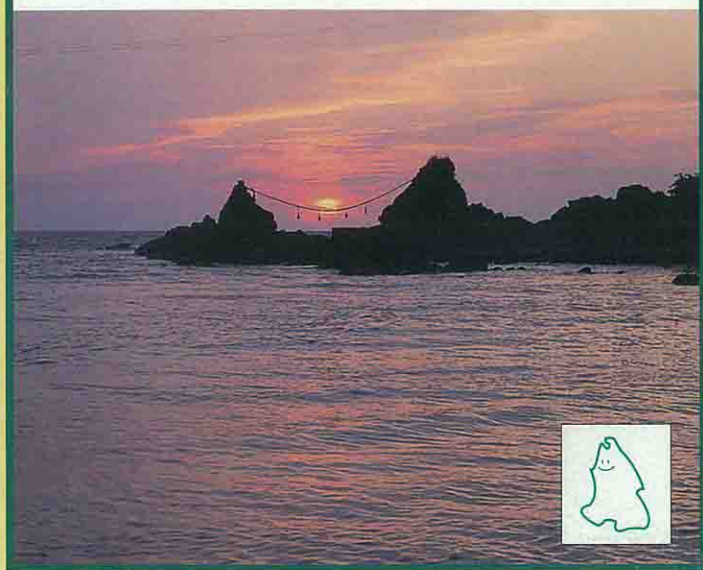


新・奥の細道

一周ルート

①

十六羅漢と夕日のみち



山形県

周辺のアクセスガイド



三崎公園(秋田県境)までは
酒田駅からJR羽越線で20分
吹浦駅からタクシーで5分
国道7号線を酒田市から北上約35分
(庄内空港から酒田駅までバスで30分)
JR吹浦駅までは
酒田駅からJR羽越線で20分
国道7号線を酒田市から北上約30分
(庄内空港から酒田駅までバスで30分)

GUIDE

みどころ案内

三崎公園

Misaki-koen

山形、秋田両県にまたがる三崎公園は、観音崎、大師崎、不動崎の三つの崎があることからこの名がついたとおり、切り立った崖の上に遊歩道が通り、雄大な日本海の眺めを楽しむことができます。また北限とされるタブ林の群生林内に現存する三崎山旧街道は、芭蕉が象潟を目指して「奥の細道」の旅をした街道としても有名で、頂上付近には慈覚大師ゆかりの大師堂などの旧跡、史跡が点在しています。



三崎公園



三崎山旧街道

女鹿(神泉の水)

Mega-sinsen-no-mizu



神泉の泉

女鹿の人々は、共同の洗い場を中心として生活をいとなみ、水とのふれあいを大切に守ってきました。洗い場は、6つの水槽に仕切られ、飲料水から洗濯用まで用途別に定められていて、昔から伝わるしきたりを守りながら大切に使っています。

アマハゲ

浜通りの女鹿、滝ノ浦、鳥崎の三集落で正月の夜に行われる伝統行事で、昔、冬季間仕事をしないで焚火や、こたつにばかりあたっていると火災(ひだこ)ができ、これを「アマハゲ」といい怠慢を意味します。このアマハゲを剥く、つまり勤労を勧めるという行事です。ワラで作った「ケンダン」という藁のようなものを体につけ、鬼面や翁の面を付けて村中を訪るという奇習です。



アマハゲ

湯ノ田温泉

Yunota-onsen



湯ノ田という地名のとおり、海岸端に温泉(鉱泉)旅館が2軒あり、日本海に沈む夕日を眺めながらの湯気気分と鮮魚料理はここならではの醍醐味です。近くには釜釜海水浴場もあります。

秋田県境にまたがる三崎公園は、海岸の切り立った岩場に遊歩道が通り、右手にひろがる日本海や間近に迫る飛鳥を望みながら、左手のタブの群生林に現存する三崎山旧街道(奥の細道)は昔をしのばせてくれます。三崎公園から十六羅漢までの国道7号線は海岸線を通り、日本海に没する夕日の眺めは感動的です。霊峰鳥海山(2,236m)を裾から望みながら十六羅漢に至ると、荒波に命を失った人達の供養と海上の安全を祈って刻まれた二十二体の磨崖仏に接し、先人の願いと自然の雄大さに感動を覚えるみちです。

十六羅漢岩

jiyuroku-rakan-iwa

コースの途中の海岸には、名勝十六羅漢岩が日本海に突き出しています。このあたり一帯は、奇岩怪岩に富み、日本海の孤島飛鳥を望み、風光明媚、まさに一幅の名画を見る感があります。吹浦はもともと漁村で、漁師の宿命として昔から多くの人達が荒波に命を失ったことでしょう。このことに胸を痛めた海禅寺第21代寛海和尚が諸霊の供養と海上の安全を祈り、苦刻57年後、明治元年に22体の見事な磨崖仏を完工しました。以来130年間この仏たちは海上の安全を念じ、大漁を祈り漁師の幸せを願ってきたに違いありません。寛海和尚の切なる願いは今に生きているのです。岩の東方百メートルの道傍には「あつみ山や吹浦かけて夕すすみ」の芭蕉の句碑があります。



※磨崖仏(まがいぶつ) インドや中国で多くみられる、自然の丘陵の岩壁に彫刻された仏像のことです。

鳥海山大物忌神社(吹浦口之宮)

Tyokaizan-omonoi-jinja

社伝によると、祭神の大物忌神は、1400余年前に鳥海山上に鎮座されたといわれています。貞観4年(862年)には官社に列せられ、国家の祀典に預かり、延喜の制には名神大社の待遇を受け、後に出羽国の一之宮として朝野の尊信を受けています。明治13年に鳥海山上を国幣中社大物忌神社の本殿とし、翌年、吹浦と蔵岡の社殿はそれぞれ口之宮と定められました。吹浦口之宮に伝わる花笠舞は、五穀豊穡等を願う田楽舞(県指定無形民俗文化財)で毎年5月4・5日の例大祭で奉納されます。



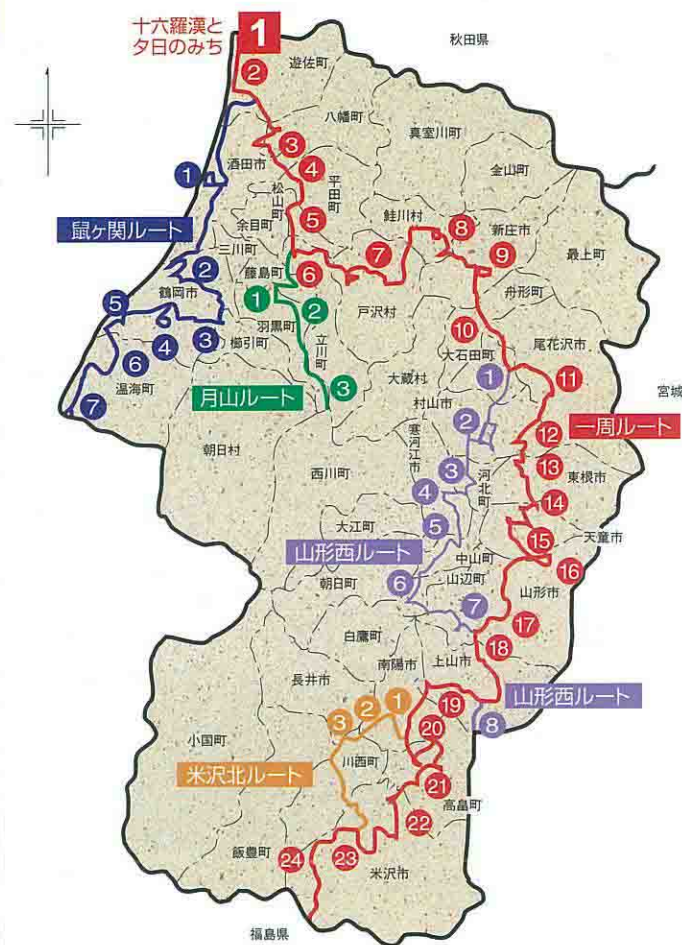
鳥海山大物忌神社



花笠舞

YAMAGATA MAP

東北自然歩道(新・奥の細道)ルート図



“新・奥の細道”とは

自分の足でゆっくり歩きながら、森や川、野鳥や虫など豊かな自然にふれあい、また、その地域の特徴ある文化や歴史と親しむためのみちです。“新・奥の細道”は正式には東北自然歩道といえます。この自然歩道は、一日で歩ける程度の遊歩道を1つのコースとして、コースの間をバスなどでつなぎながら東北を一周する長距離自然歩道です。そして、この道は福島県白河を起点とし、宮城、岩手、青森、秋田、山形の順で経由して福島県郡山に至るルートになっています。

また、この“新・奥の細道”は東北を一周するルートの他に、景観の優れた地域や名勝地等に向かうルートがあります。県内でも、月山ルート・鼠ヶ関ルートなど4つのルートがあり、山形県内のルートをあわせた総延長は45コースで469Kmとなっています。

この“新・奥の細道”を楽しむために

- 1.コースのみどころ、地形、距離をあらかじめ調べて、余裕のある日程を組みましょう。
 - 2.歩きやすい服装で、荷物は最小限にとどめましょう。
 - 3.天気予報に注意して、天気のいい日を選んでゆっくり歩きましょう。
- この3つを守り、友人と、家族と、さあ出発!

おねがい

- ・ゴミは捨てないで持ち帰りましょう。
 - ・たばこの投げ捨てや、山火事には十分注意しましょう。
 - ・案内板や休憩所はみんなのもので、大切にしましょう。
 - ・美しい自然は、人間だけのものではありません。草花や虫たち、小鳥たちのためにも自然を汚さないようにしましょう。
- そして、美しい自然を後世まで伝えていきましょう。

このみちは、年金積立金選元融資を受けてつくられました。